

A4 1 ページにまとめてください。

所属・氏名 (助産学専攻科 氏名： 北村 万由美)

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術論文) 実習指導者が認識する分 娩介助実習の実情 《筆頭論文》	共著	2021 年 4 月	インターナシヨ ナル NursingCare Research, 20(1)	実習指導者が認識する分娩介助実習の 実情を明らかにすることを目的に、自 記式質問紙調査を用い内容分析を行っ た。分娩介助実習では今後、臨床と教 育機関との連携強化や助産師の生涯学 習の推進、さらに夜間の実習指導体制 や学生の休息の確保等、実習環境の整 備・改善の必要性が示唆された。 (総ページ数：10 頁) 論文著者名：北村万由美・江口瞳 担当部分：全般
2 (学術論文) 産後ケア事業に関する研 究の動向と課題	共著	2020 年 11 月	インターナシヨ ナル Nursing Care Research, 19(4), 147-156	産後ケア事業の研究課題を検討するた め文献検討を行った。研究内容は【産 後ケア事業の現状】、【産後ケア利用に 対するニーズ】、【産後ケア事業に対 する効果と満足度】の 3 つのカテゴリ ーに分類された。産後ケア事業の研 究は始まったばかりであり、今後は 地域性をふまえた現状を把握し対 策を見出す研究が必要であることが 明らかになった。 該当論文の著者名：平田紗衣 杉野真 紀 北村万由美 担当部分：特定不可
3 (学術論文) 分娩介助実習における助 産診断に関する助産師の 教授活動 《筆頭論文》	共著	2019 年 4 月	母性衛生 第 60 卷 1 号, 39-46	分娩介助実習において助産診断を指 導する助産師の教授活動を明らかに することを目的に、半構造化面接法 を用い内容分析を行った。助産師は 学生の思考する力や判断する力を育 て、刻一刻と変化する分娩場面をエ ビデンスに基づき診断ができるよう 、学生自身の内省を促す指導をして いることが明らかになった。 (総ページ数：8 頁) 論文著者名：北村万由美・江口瞳 担当部分：全般
4 (学術論文) 分娩介助実習における倫 理的配慮に関する助産師 の教授活動 《筆頭論文》	共著	2019 年 1 月	母性衛生 第 59 卷 4 号, 810-817	分娩介助実習において倫理的配慮を 指導する助産師の教授活動を明らか にすることを目的に、半構造化面接 法を用い内容分析を行った。助産師 は学生に産婦を尊重しながら新しい 命を繋ぎ家族を形成していく過程を 支える助産師の役割を指導していた 。また助産師としての責務と使命感 を伝えアイデンティティの確立を促 していた。さらに学生を尊重し成長 した学生を信頼することを意識なが ら実習指導を実践していることが明 らかになった。 (総ページ数：8 頁) 論文著者名：北村万由美・江口瞳 担当部分：全般